

町嘱託医 あつまクリニック 呉賢一副院長 新型コロナウイルス感染症に関するメッセージ

みなさんこんにちは。あつまクリニック副院長の呉です。

本日は、昨年の緊急事態宣言下に当院の石間院長より新型コロナウイルス感染症についてお話があった内容に加え、同じ町医・学校医の立場から、現在のワクチン接種の状況等を踏まえてお話したいと思います。

全国で新型コロナの第5波に見舞われており、北海道でも3度目の緊急事態宣言が発令中となっています。第5波の特徴として感染者数に占める重症者の割合が少ないことが挙げられますが、だからといって決して安心できるものではありません。

感染者数のうち、重症化する割合が減っているのも「感染者の大部分が若い世代であること」「重症化リスクが高かった高齢者の世代でもワクチン接種によって感染者・重症者が減っていること」が要因と考えられます。

ただし、いくら重症化する人の割合が減ったとしても、分母となる感染者数が現在のように爆発的に増えてしまえば重症者は増えてしまうことから、結果的に全国の重症者数は過去最多となっていて、再び医療体制が逼迫しています。

従来新型コロナウイルスは1人の感染者から平均1.4～3.5人くらいに感染していましたが、現在主流となっているデルタ型は1人の感染者から平均5～9人に感染すると言われていました。これは空気感染する水痘(水ぼうそう)と同等と考えられ、デルタ型の占める割合が増加すればますます感染者は増加しやすくなります。

第5波を乗り越えることができた後、次に起こる流行の規模を縮小するためには、やはりワクチン接種を進めていくことが鍵になります。当初、今回の新しいワクチンは「発症を防ぐ」のであって感染そのものを防ぐかどうかはわかっていない、と言われていましたが、感染を防ぐ効果もわかってきました。感染しにくくなるということは、接種者がその周りの人に感染を広げる可能性が低くなるので、ワクチン接種を進めていくかが重要になってきます。デルタ型に対しても、感染予防効果や発症予防効果が低下する可能性はあるものの、重症化予防効果は保たれていることが判明しています。

厚真町においては5月下旬からワクチンの集団接種を毎週行っていて、7月・8月には当院で個別接種も平行して進めてきました。幸い都市圏でみられているような大きな混乱はみられず、順調に進んだことから集団接種は今月中旬で終わりますが、今後は個別接種を需要に応じて行う予定です。また、様々な事情でワクチン接種できない方・されない方もいらっしゃると思うので、決してその方々を差別することがないようにお願いします。

全国的にコロナ疲れ・宣言疲れがみられ、町民皆さんも我慢を強いられる日々を送っているものと思われます。しかしながら、度重なる我慢によって感染の速度を緩やかにして時間を稼いだことで、新型コロナがまだよくわからなかった昨年と比べると、ワクチンが作られ、抗体カクテル療法といった新しい治療法も開発され、札幌市においては中等症の新型コロナ患者となっても回復が早い傾向がみられるようになってきています。

最後に、私たちにできることは、これまでと変わりません。アメリカでは、ワクチン接種後はマスクの着用は不要という指針を出していた時期もありましたが、デルタ型の感染力やワクチン効果の低下を鑑みて「ワクチン接種者も屋内ではマスク着用」という推奨に変更しています。町民の皆さんもワクチン接種を完了しても、デルタ型が広がっている今、これまで通りの感染対策を続ける必要があります。現状においては、すでに多くの方が実践している基本的な感染対策、①屋内ではマスクを装着する②3密を避ける③こまめに手洗いをする、といったことをより徹底しましょう。

(令和3年9月10日 20時、11日 12時20分放送)